

基礎データ	○サル分布状況:瀬沢群 50頭、鳶木群 50頭、花場群 150頭 【加害レベル】いずれもレベル3(目安:通年農地に出没し、農作物に被害を及ぼす)
	○農作物被害額(H28):1,489千円 【作物種別】トウモロコシ、ネギ、カボチャ、ブルーベリーなど
	○進入防止柵(集落柵)の設置:51.1km 【柵の種別】ネット柵(通電あり・なし)、電気柵、金網複合柵
	○サル捕獲頭数(H28):瀬沢群 9頭、鳶木群 16頭、花場群 26頭
	※第一次 富士見町サル被害対策プロジェクトより引用

サル被害対策の現状と課題

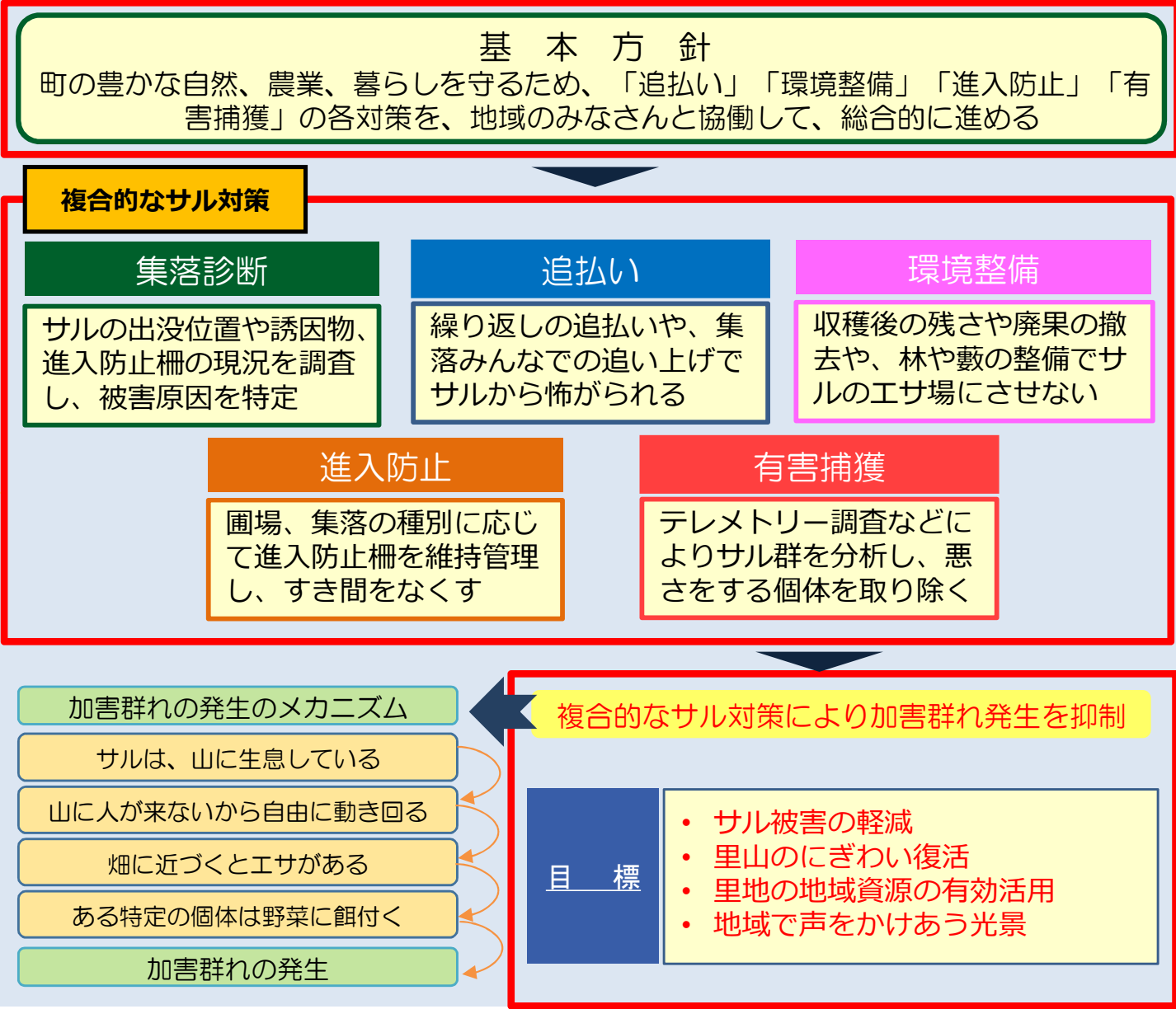
第一次 富士見町サル被害対策プロジェクト(平成三十年三月)

<追払い>
被害農家個人レベルでの実施
➢集落全体での追払いの実施

<環境整備>
誘因物の残存、緩衝帯未整備箇所
➢誘因物の現況把握、緩衝帯整備の実施

<進入防止>
集落柵設置事業の完了も、通電しなかったり隙間があったり、そもそもサル対策に向いていないものも
➢資材支給などで不良箇所の修繕をサポート、電気柵監視通報システムの有効活用、農地ごとの電気柵設置

<有害捕獲>
通年、特に冬期に集中して捕獲を実施するも、徐々に捕獲されにくくなっている
➢テレメトリー調査などによりサル群れ情報・行動特性を把握し、計画的に捕獲



基礎データ	○サル分布状況：瀬沢群 40頭、蔦木群 35頭、花場群 100頭、平岡群 30頭 ○加害レベル：蔦木群 レベル4（目安：群れの全個体が通年耕作地周辺に出没、常時農作物被害、人慣れしている） その他 レベル3（目安：群れのおおむねの個体が季節的に耕作地に出没、季節的に農作物被害、人慣れし始めている） ○販売用農作物被害額（R2）：984千円【作物種別】トウモロコシ、カボチャ、ネギなど ○賦存進入防止柵（集落柵）：50.3km【柵の種別】ネット柵（通電あり・なし）、電気柵、金網複合柵 ○サル捕獲頭数（計画期間）：134頭（瀬沢群23頭、蔦木群55頭、花場群49頭、平岡群7頭）	※令和3年度第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル） 年次計画（富士見町計画）より一部引用
集落診断	○協議会のモデル集落事業で電気柵の設置を行ったところ、センサーカメラやGPSデータに基づき効果を検証 ➢電気柵を設置してもサル群れの行動の変化はなく、引き続き追払いや環境整備が必要であることの確認	
追払い	○集落からの申請に基づき、追払い資材の支給 ○ホームページのサルマップを通じて、住民のみなさんの追払いの実施状況を共有 ➢机区や池袋区では、住民同士がサル出没状況を共有し、集落ぐるみでの追払いを実施 ○農家の方との現地立会いや広報9月号で、追払い方法について案内（道具なしに人間が近づくだけでも、サルは逃げていきます）	
環境整備	○協議会事業により、上蔦木区で進入防止柵沿いに長さ177m、幅おおむね5m以上の緩衝帯を整備 ○森林環境譲与税を活用しての里山整備事業について、事業方針を策定し、事業説明会を実施。令和3年度以降の事業実施を計画 ○農家の方との現地立会いや広報9月号で、誘引果樹ややぶ払いなどの環境整備を案内	
進入防止	○協議会のモデル集落事業により、段差のある複数の圃場を囲う電気柵を設置し、効果検証 ➢農作物への被害はなくなり、いままで諦めていたトウモロコシやナスが栽培できて、出荷やお盆を迎えることにつながる ○先達区で、長さ410mの進入防止柵の設置工事 ○先能集落組合で、長さ150mの進入防止柵の設置工事 ○平岡区で、長さ164mの進入防止柵の張替え工事 ○集落からの申請に基づき、進入防止柵の補修等の資材を支給 ○個人の農地に設置する電気柵の資材費に補助金を交付 ○電気柵監視通報システムのアカウント等を集落へ案内 ➢御射山神戸区では、毎日電気柵監視通報システムを利用することで、迅速な修繕につながっている ➢栗生集落組合と電気柵監視通報システムについて打合せを実施、利用につながる	
有害捕獲	○富士見町猟友会に通年の委託をし、冬期（11月～2月）は専門業者と連携するなど、53頭のサルを捕獲（瀬沢群8頭（GPS装着1頭）、蔦木群24頭、花場群17頭、平岡群4頭（GPS装着1頭）） ➢うち、11月～2月の捕獲は35頭。 ➢捕獲活動の参考としてテレメトリー調査の情報を富士見町猟友会と共有	